

報道関係者 各位

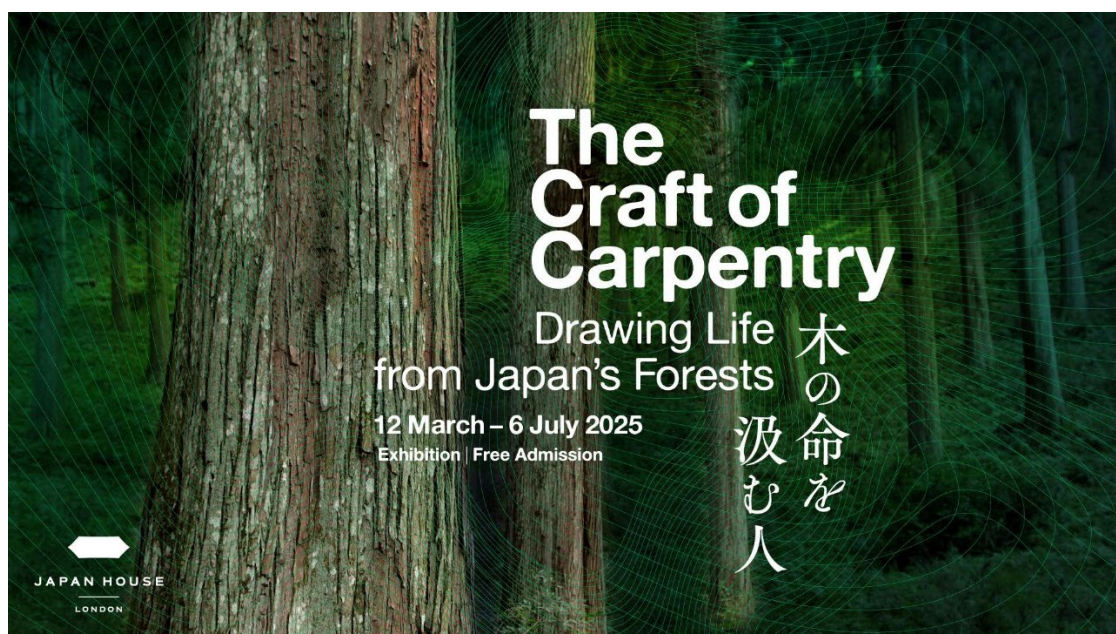
2025 年 1 月 21 日

ジャパン・ハウス ロンドン

『The Craft of Carpentry: Drawing Life from Japan's Forests 木の命を汲む人』展

2025 年 3 月 12 日（水）－ 2025 年 7 月 6 日（日）

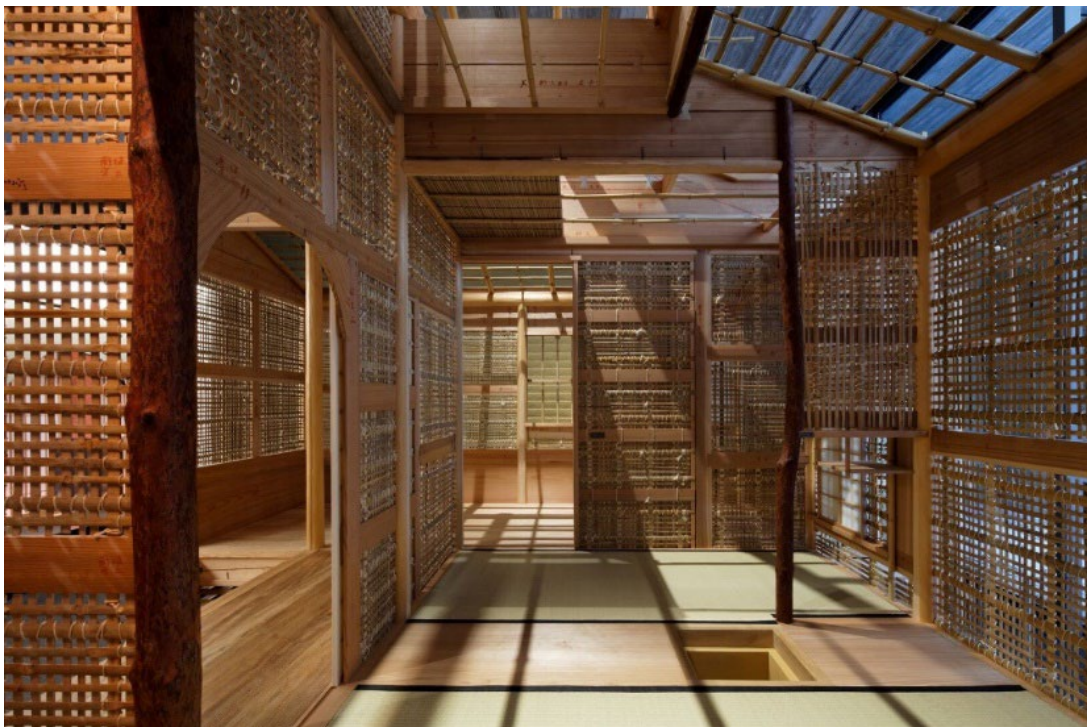
ジャパン・ハウス ロンドン 地下ギャラリー／1 階ショーウィンドウ・展示ブース



ジャパン・ハウス ロンドンは、2025 年 3 月 12 日（水）から 2025 年 7 月 6 日（日）まで、日本人独特の自然観が育んだ日本の木工文化の全貌に迫る『The Craft of Carpentry: Drawing Life from Japan's Forests 木の命を汲む人』展を開催します。日本の木工文化が高度に発展を遂げてきた背景には、世代を超えて脈々と受け継がれてきた伝統と、日本人独特の自然に対する畏敬と敬虔の念、そしてその自然環境に培われてきた職人の技と心があります。本展では、日本の社寺建築を支え続けてきた「堂宮大工」と、茶室をはじめとする日本の伝統的建物を手がける「数寄屋大工」、そして世界に誇る日本の代表的な木造建築技術「木組」の三つの側面から日本の木工文化とは何かを探ります。

日本の社寺建築には何千年にも及ぶ木工の伝統と文化があります。数百年の風雪に耐える寺院や神社の建造や修繕にたずさわる堂宮大工は、木と対話しその性質を見極め、適材適所に「木の命を活かす」優れた技術や豊富な知識だけではなく、自然に対する畏敬と敬虔の念を抱き「木の命を尊ぶ」心が求められます。堂宮大工は、木という物質的な世界と自然という崇高な存在を畏れ敬う精神的な世界をつなぐ役割を担う、まさに本展のタイトルに据えられたとおり「木の命を汲む人」そのものなのです。本展では、堂宮大工棟梁の仕事を模型や図面などを通して木造建築の高度な技と職人たちの心の真意に迫ります。

大型の木材で重厚な社寺建築を手がける堂宮建築とは対照的に、日本の代表的な建築様式である数寄屋建築は、軽快で洗練された美しい意匠が特徴です。本展では、茶室建築の代表として、国の重要文化財に指定されている大徳寺玉林院茶室「蓑庵（さあん）」を原寸大の骨組み構造模型で再現し、英国にしながら日本の伝統的木造建築の世界を間近で体感できる空間を作り上げます。数寄屋大工の繊細な手仕事が生み出す技や美意識を間近に見ることで、日本独特の文化や精神に触れ、新たな発見や感動に出会えるかもしれません。



重文茶室「蓑庵（1742年）」の構造模型 ©竹中大工道具館



昭和初期の製材風景 ©竹中大工道具館

日本の木造建築の発展とともに、日本の大工道具は多彩な発展を遂げてきました。多様な建築木材に対応し、用途や技に合わせて、大工職人の知恵や工夫を駆使しさまざまな画期的な道具が生み出されました。本展では、精緻で美しい日本の建築文化を育んだ 80 点を超えるさまざまな大工道具を展示します。また、鉄資源が乏しく十分な鉄製工具を揃えることは容易ではなかった日本において、大工職人たちは限られた道具を駆使し、釘やボルトに頼らない接統法である「木組」の技を生み出しました。本展では、伝統木造建築を支えてきた「木組」にも焦点をあて、その技術や歴史をたどりながら、建築様式や架構形式の展開、木組の種類や工夫、それに並行する道具の進化についても紹介します。会場には、来場者が継手や仕口などの木組を分解し組み直すことができるコーナーも設けられ、一見しただけでは分からない精巧な建築技術を実際に体験することができます。



さまざまな指物の木組 ©竹中大工道具館

「現代の日本においても、大工の存在は日常生活に欠かせません。日本の大工職人たちの丹念な手仕事は国内外から称賛されています。何世紀にもわたり、先人たちが森林資源を大切に扱ってきた結果、人と木との間に深い関係が築かれてきました。日本の木工文化に根付く自然環境に配慮した持続可能性の概念は、何百年も前から現代まで変わらずに存在してきました。

本展が、日本の大工仕事についての真のストーリーを伝えることで、日本において木工の重要性とは？日本の大工仕事は日本人自身からどのように認識されているのか？などの疑問に答え、そして新鮮な驚きを与えてくれることを願っています。」

——— サイモン・ライト（ジャパン・ハウス ロンドン企画局長）

『The Craft of Carpentry: Drawing Life from Japan's Forests 木の命を汲む人』展は、ジャパン・ハウス ロンドン主催で、竹中大工道具館（兵庫県神戸市）の企画により開催します。竹中大工道具館は、消えてゆく大工道具を民族遺産として収集・保存し、さらに研究・展示を通じて後世に伝えていくことを目的に、日本で唯一の大工道具の博物館として1984年に設立されました。本展は、同館の館長補佐兼主任学芸員である西山マルセーロが企画・デザインを手がけ、2019年から2021年にかけて日本各地で開催された同館開館35周年記念特別展『木組 分解してみました』を基に、一部展示内容を再構成して開催されます。本展は、ジャパン・ハウスの巡回企画展として、ロサンゼルスに続きロンドンで開催され、その後サンパウロに巡回する予定です。

【開催概要】

展覧会名（英語）：『The Craft of Carpentry: Drawing Life from Japan's Forests』

展覧会名（日本語）：『The Craft of Carpentry: 木の命を汲む人』

主 催：ジャパン・ハウス ロンドン

企 画：竹中大工道具館

ジャパン・ハウス ロンドン協賛：Takenaka Europe GmbH、Epson UK Ltd、Yamaha Music Europe GmbH

会 期：2025年3月12日（水）－2025年7月6日（日）

場 所：ジャパン・ハウス ロンドン（101-111 Kensington High Street, London, W8 5SA）

時 間：月曜日～土曜日 | 午前10時～午後8時

日曜日・祝日 | 午後12時～午後6時

入 場：無料

【本展広報用画像】

本展の広報用画像は、[こちら](#)からダウンロードいただけます。

本展の公式展覧会画像につきましては、準備が整い次第お知らせいたします。

【ジャパン・ハウスについて】

ジャパン・ハウスは、日本の多様な魅力や政策、取組を発信することにより、日本への関心・理解・支持を一層拡大させることを目的に、外務省により世界の3都市（サンパウロ・ロンドン・ロサンゼルス）に設置された対外発信拠点です。

ジャパン・ハウス ロンドンは、日本文化への関心が高まる欧州の拠点として、ロンドン市内の文化的、商業的建造物が多く所在するエリアの目抜き通りケンジントン・ハイストリートに2018年6月に開館しました。アールデコ調の歴史的建造物の中の3フロアにわたり、展示ギャラリー、多目的スペース、ライブラリー、レストラン、カフェ、ショップ、観光案内コーナーを備えた複合施設として、アート、デザイン、食、建築、テクノロジーなど日本の多様な魅力を通して、真の日本との出会いを現地の人々に提供しています。

[公式ウェブサイト](#)

[Facebook](#)

[Instagram](#)

[X](#)

【本展についてのお問い合わせ先】

ジャパン・ハウス ロンドン事務局 Marketing & Communications 部

担当：飛騨 香生里（Stakeholder Engagement Manager）

E-mail：Kaori.Hida@japanhouselondon.uk